

# 市民の声

## ～行方市によせる想い 20歳の意見特集～



大久保 好二  
(富田)

20歳を迎えた私が目指したいのは、「責任感のある人間」である。「責任」というと、その意味を「何らかの失敗をしたときに自分の身体を賭けること」と理解する人が多いだろう。近年、食品などに関する企業の管理

体制がしばしば問題になっているが、そのたびによく出てくる「あの責任」である。

私の言う「責任」というのは、それとは少し違って、「自分の言動の理由が説明できること」という意味である。なぜなら、「賭ける身があるほど偉くない」というのももちろんあるが、より厳密には、「自分の思い通りに世界は動いていない」からである。たとえば、日々の生活に

において、何気ない行動や言動が、意図に反して人を傷つけるということによくある。そのようなときに、自分の振る舞いの意図や理由を、傷つけてしまった人に説得的に説明できるようにすることが、私の考える「責任」である。

自分の身を渡すときだけに果たす「責任」とは違って、不断の努力が求められるものだが、あきらめずに頑張っていきたい。

参加し、市の発展に貢献していきたいと思えます。



方波見 尚美  
(繁昌)

少子高齢に伴い、我が行方市も年々人口が減少していると思えます。私自身、高校から地元を離れてしまいましたが、年に数回帰省することに、市の活気が衰えているように感じまし

た。例えば、夏に行われる祇園祭に参加している子供たちの数が、私たちの幼少時代に比べて減少してきているということ。昔から受け継がれている伝統が衰退していくことは、とても悲しいことです。さらに市を向上させるため、交通機関の整備や民間施設を充実、伝統の復興などに取り組み、活気のあるまちづくりを望んでいます。成人した現在、こういった市の取り組みに積極的に



大切に、農作物を中心とする産業をもっと全国にアピールして欲しいと思えます。私は現在実家を離れ一人暮らしをしていますが、将来は思い出の詰まった故郷である行方に教師として戻り、教育活動を通し社会の一員として地域に少しでも恩返し

(松兼幸蔵)



宮本 智弘  
(玉造乙)

私が行方市で生まれ育ってはや20年が過ぎました。まだ実感はありませんが、新成人となり新たに選挙権などの権利を得たわけです。これか

らは自分の得た権利に責任を持って市政に参加したいと思えます。そこで、情報公開を徹底し、新成人をはじめとする有権者にわかりやすい政治運営をしてほしいと思えます。同時に、今回のように市民の声を聞く機会を増やして市民全体で行方市を考えていければ、行方市がより素晴らしくなると思えます。

また、今も変わらぬ歴史と自然を

たいと思っています。そして、行方がみんなから愛される市になって欲しいと思っています。

### 編集後記

新春を迎え、皆様におかれましてはますますご健勝のこととお喜び申し上げます。昨年を振り返りますと、日



本列島の夏は、例年になく猛暑でした。また、国内では、食品偽装を始め、消費した年金、被害、参議院選自民党惨敗によるねじれ国会など、いろいろな事件が起きた一年でした。また私たちに身近な問題として、米価低迷により、稲作農家に大きな課題が残されました。平成20年は災害がなく、安定した気候であることを願うところです。

今、私たち議員も平成20年度予算に向け、本格的に議論しながら、行方市安定のため努力しなければならぬ大事なときにあると思えます。

本年も議会だよりが、皆様に親しまれる広報紙となるよう頑張っておりますので、よろしくお願い申し上げます。

#### 広報委員会

- |      |       |
|------|-------|
| 委員長  | 宮内 正  |
| 副委員長 | 高木 正  |
| 委員   | 松兼 幸蔵 |
|      | 岡田 晴雄 |
|      | 高橋 正信 |
|      | 横田 太一 |